

## 第四部 まとめ

## 研究のまとめ

### ・個別の指導計画の作成の意義と期待される機能

個別の指導計画の作成の意義は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに丁寧に対応した教育を実現することである。

個別の指導計画の作成は、教育的ニーズに応じた支援の個別化、最適化を図ること、すなわち1人1人の児童生徒の日々の学習（教育）活動の充実、学校生活の充実に結びつかなくてはならない。また、複数の教師、教師と保護者や関係者を交えて作成することで、実際の指導に結びつく有機的な情報の共有等、支援のネットワーク化を図ることの必要性の認識を学校教育関係者に深め、作成過程そのものが有機的な情報の共有等、支援のネットワーク化の実現のための手だてとなることが期待される。

### ・個別の指導計画の作成における教育的ニーズの把握と個別の指導計画の作成システム

個別の指導計画の作成では、児童生徒1人1人の教育的ニーズを明らかにして、指導計画を作成する必要がある。教育的ニーズとは、「現在から未来にわたる豊かな生活を実現するために、その子ども自身が学校教育に求めていること」であり、「今、将来に必要と判断される事柄（地域での生活や年齢等を考慮して、必要とする支援の内容とその程度）」の内容としてとらえ、「子ども本人や保護者、教師、社会のニーズ等を総合的に考察した結果として導き出す」という手続きを経て、整理していく必要があると考えられる。

本人・保護者や関係者が参加して個別の指導計画を作成していくシステムづくりでは、担任教師と本人・保護者や関係者との協力関係の形成がポイントとなる。協力関係の形成については、ソーシャルワークでのパートナーシップの形成の考え方から学ぶ必要があることが示唆された。

### ・個別の指導計画の作成の実際

研究協力校においては、より簡便で授業に生かせる様式、教師・本人・保護者のニーズの整理や指導目標・方法の具体化等の作成システムの工夫がなされている。また、通知票や学習指導要録等との関連等の指導経過を記録し引継に生かせる機能等が課題となっている。

一方、保護者からは、本人・保護者・教師のニーズの整理や教育的ニーズに応じた指導目標・方法の具体化等、教師の専門性を高めることが強く要望されている。

### ・個別の指導計画の作成にかかる研修

全国の特設教育センター等を対象とした調査により、個別の指導計画の作成にかかる研修の実施状況を明らかにした。

今後も引き続き調査を行うことで、学校における個別の指導計画の意義や果たす機能に関する知見の深まりを明らかにできることが示唆された。

## V．今後の研究課題

- 1 個別の指導計画の作成にかかわる担任教師等、保護者・本人、その他の関係者の協力関係の形成のあり方の実際的な考え方の整理と協力関係を深めるための技術の開発。
- 2 本人・保護者・教師のニーズの整理や教育的ニーズに応じた指導目標・方法の具体化等、担任教師の専門性を高める研修プログラムの開発。

# 重度知的障害教育研究室一般研究 知的障害養護学校における個別の指導計画の作成とその実際に関する研究」 (平成11年度～平成13年度)の概要

## 1 個別の指導計画の作成意義と教育的ニーズのとらえ

個別の指導計画の作成の意義は、支援の個別化・最適化であり、日々の学習活動や学校生活の充実をめざすものである。

個別の指導計画を活用(機能化)するためには、子ども本人や保護者、教師、社会的ニーズ等を総合的に考察したものととして教育的ニーズを捉える必要がある。

## 2 個別の指導計画の活用(機能化)のために

個別の指導計画の作成過程に保護者や他の教師等が参加し、情報の有機的結合に取り組む必要がある。この手続きは、支援のネットワークを構築することにつながることを期待される。

めには、子ども本人や保護者、教師、社会的ニーズ等を総合的に考察したものととして教育的ニーズを捉える必要がある。

## 3 個別の指導計画を作成、実施するための教師の研修支援

個別の指導計画を作成、実施するための教師の専門性として、教育的ニーズの把握・目標の設定・指導方法の具体化、保護者等の関係者とのパートナーシップを形成していく技術が求められている。

特殊教育センター等は、これらの専門性を身につけるための研修等の支援を求められている。

